

# 地方創生推進交付金事業 評価・検証シート 【令和元年度実施分】

≪内部評価≫（100点満点） 個別項目についてそれぞれ評価しています。

	評価項目	A (13点)	B (9点)	C (5点)	D (1点)
有効性 (26点)	KPI 達成への貢献度	最も効果的である	概ね効果的である	やや効果的ではない	効果を見込めない
	総合戦略への貢献度				

	評価項目	A (14点)	B (10点)	C (6点)	D (1点)
有効性 (14点)	期待した効果の達成度	最も有効的である	概ね有効的である	やや有効的ではない	有効的ではない

	評価項目	A (10点)	B (6点)	C (3点)	D (1点)
効率性 (30点)	コスト効率	最も効率的である	概ね効率的である	やや効率的ではない	効率的ではない
	手段の最適性	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
	受益者負担は適切か	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な技術はあるか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な財源の見通し	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない

≪総合評価≫ 個別項目の合計点により、総合評価をしています。

	得点率	得点	目安となる考え方
A	80%以上	80点以上	計画通りの実施が適当
B	79~50%	79点~50点	一部見直しで足りる程度
C	49~20%	49点~20点	見直すべき項目がある
D	19%以下	19点以下	事業の統合、廃止等の検討が必要

みんなで発見・発信・おもてなし！

津島 “にぎわい” 創出プロジェクト

令和元年度事業額：12,749,999円（総事業費42,749,999円）  
 交付金充当額（補助率1/2）：6,374,999円（総交付額：21,374,999円）  
 評価対象期間：令和元年度（事業実施期間：平成29年度～令和元年度）

《事業の概要》

- ・本市の魅力的な歴史・文化を活用して、地域住民と協働で回遊・発信・おもてなしをする環境づくりを推進し、“にぎわい”を創出することが最重要の課題である。
- ・そのために、参加者を募集して津島の魅力ある地域資源を回遊できる「まち歩きツアー」、映像の制作を通じて市の魅力づくりや情報発信の手法を学ぶ「映像づくりワークショップ」、来訪者に対する接遇を学び、積極的におもてなしに取り組む「津島おもてなしコンシェルジュ育成講座」等を実施する。
- ・上記事業の実施を通して、津島市まち・ひと・しごと創出総合戦略等に掲げる「稼げるまち」、「住んでみたいまち・住み続けたいまち」「若者・女性が活躍できるまち」への課題・問題の解決を図る。

《事業の進捗状況》※主な事業を記載



《まち歩きツアーの開催》 所管：シティプロモーション課  
 10月～翌3月の計15日間（うち4日間不催行）に、市内店舗、寺社等をツアーに組み込んだ、有料の「まち歩きツアー」を実施した。おもてなしコンシェルジュ自らがツアーの企画・店舗等の調整・当日のガイドを実施し、参加者に満足できるツアーを提供できた。（参加者120名）



《映像づくりワークショップの開催》 所管：シティプロモーション課  
 市の魅力向上、発信力がある人材の確保・育成をするため、「映像づくりワークショップ」を開催した。短編小説コンテスト受賞作品2編を映画化して上映会で公開した。YouTube等でも広く周知することができた。（参加者35名）



《津島おもてなしコンシェルジュ育成講座の開催》 所管：産業振興課  
 多くの市民、来訪者に対して、おもてなしができる人材を育成するため、周知用のチラシを作成・配布して広く受講者を募集して、歴史に関する講座、おもてなし・接遇に関する講座等を開催した。合格者には認定証を授与した。（認定者40名）

その他事業について

	事業名	概要
1	リアルご当地検定の実施	アプリ版と紙版の謎解きゲームを実施してファミリー層に好評であった。愛知大学の学生による謎解きゲームの企画・運営もできた。
2	津島詣マップの作成	名城大学の外国人留学生在が作成した広域観光マップをホームページに掲載して、市内における外国人の誘客に寄与した。
3	津島 OSHI、津島おもてなしステーションの募集・登録	情報発信する人及びおもてなしをする店舗等を募集することにより、市内における来訪者の利便性や満足度に寄与した。

《KPI の状況》

指標名	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		H29.4	H30.3	H31.3	H32.3		
指標1 指標4	「まち歩きツアー」と「リアルご当地検定」の合計参加者数（人）	320	600 (増加分)	1,500 (増加分)	3,600 (増加分)	5,700	目標値を下回ったが、より魅力的なツアーを作り出せるようになった。
	実績値		189	2,147	1,744	4,080	
指標2	「映像づくりワークショップ」参加者数と「津島おもてなしコンシェルジュ」認定者数の合計者数（人）	89	70 (増加分)	81 (増加分)	120 (増加分)	271	目標値を下回ったが、情報発信などの人材を十分に確保できた。
	実績値		41	47	75	163	
指標3	「津島 OSHI」と「おもてなしステーション」の合計登録者（箇所）数（人・箇所）	176	105 (増加分)	120 (増加分)	159 (増加分)	384	目標値を大幅に下回ったが、魅力的で多様な情報発信ができた。
	実績値		22	5	2	29	

《成果》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止となった事業があるが、参加者からは高い満足度を得ることができ、それによりリピーターやロコミからの参加者の増加につながった。また、おもてなしコンシェルジュが主となってツアー企画・運営を行うなど、情報発信・おもてなしをする人材を確保・育成できた。

《事業の課題》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

- ・マーケットニーズに沿った事業内容の企画・運営や情報発信ができる人材・組織の確立が不十分であった。
- ・チラシ、インターネット等のメディアを活用し周知を行ったが、見込んだ参加者数に至らなかった。

《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40点)	KPI 達成への貢献度	B	歴史・文化を活かしたまちづくり、シティプロモーションの展開等を目指す総合戦略や KPI に貢献している。	B
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30点)	コスト効率	A	必要最低限のコスト・手段に応じた成果を出しており、昨年度と比べて受益者負担も適切になった。	
	手段の最適性	A		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	B	十分な収益につながらなかったため、ノウハウのある人材や財源の確保などに努める必要がある。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	C		

《今後の展開》

ツアーや検定事業等で、津島おもてなしコンシェルジュや地元店舗等が自主的に稼げるようにサポートする。短編映画、小説、VR動画、詣でマップ等の成果物については、積極的に周知して地域への愛着の醸成、住みたいまちを目指す。

担当部局： 市長公室 / 担当課： シティプロモーション課

# 天王信仰の総本社「津島神社」への参道を核とした 門前町再生事業


令和元年度事業額：7,656,000円（総事業費：27,607,920円）  
 交付金充当額(補助率1/2)：3,828,000円（総交付額：13,803,960円）  
 評価対象期間：令和元年度（事業実施期間：平成29年度～令和元年度）

## ＜事業の概要＞


名鉄津島駅から津島神社までの「天王通り」は、かつては通りの両側に商店が軒を連ね、津島神社までのメインストリートとして多くの人が行き交う活気にあふれた大通りでしたが、現在は空き店舗が増加しシャッター街化が進行しており、地域の活力が失われています。本事業では、「天王通り」を津島神社への参道と見立て、門前町の再生からまちの賑わいを創出します。

- ・天王通りの空き店舗への出店を促進するため、物件リストを作成し、出店希望者とのマッチングを行うシステムを構築する。
- ・店舗にて体験型の商業プログラムのシステム開発及びサイトを立ち上げる。
- ・天王通り沿いの活用方法について、全国から提案されたアイデアを参考に地域ワークショップを行うことで、商店街の機運を高めるとともに、将来の方向性を検討する。


## ＜事業の進捗状況＞※主な事業を記載



＜マッチングシステム運用事業＞ 所管：産業振興課  
 空き家や空き店舗の所有者と出店希望者を結びつけ、出店を促進するために、平成29年度に構築したマッチングシステムを本格稼働させ、美容室1店舗が出店した。また、空き家や空き店舗の見学に合わせて、当事業で出店したお店を、事例として紹介する「空き家ツアー」や、出店希望者の都合に合わせて随時空き家見学会を開催した。（参加者16名）



＜体験プログラム運用事業＞ 所管：産業振興課  
 平成29年度より運用してきた体験プログラムを本格稼働させ、24の店舗及びお寺のプログラムを運用した。（参加者998名）また、新たにデザインを見直し作成したリーフレットを東海三県の観光協会や施設などに配布したり、FacebookやInstagramなどのSNSにより体験プログラムの開催情報を発信するなど、積極的に広告宣伝活動を行った。



＜レンタサイクル運営事業＞ 所管：産業振興課  
 市内の観光施設やお寺などを散策する際の移動手段として、名鉄津島駅から西へ徒歩約2分のところに位置する「千賀サイクル店」にレンタサイクル用自転車5台を設置し、令和元年7月から自転車の貸し出しを始めた。（利用者121名）

## その他事業について

事業名	概要
1	
2	

## ＜KPIの状況＞

指標名	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		H29.4	H30.3	H31.3	H32.3		
指標1	体験プログラム参加数 (人)	0	500 (増加分)	2,000 (増加分)	5,000 (増加分)	7,500	目標値を大幅に下回ったが、アンケート結果では、約9割の参加者がプログラム内容に満足していた。
	実績値		197	911	998	2,106	
指標2	空き家・空き店舗出店数 (店舗)	0	0 (増加分)	5 (増加分)	10 (増加分)	15	目標値を大幅に下回ったが、事業期間全体を通じて、意欲的な出店者を見つけることができた。
	実績値		0	4	1	5	

## ＜成果＞※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

- ・体験プログラムは、新型コロナウイルス感染症の発生で、2月から3月のプログラムが一部開催できなかったが、専用ホームページやリーフレット、SNSなど積極的な広報活動や口コミにより、年間で約1,000人の参加があった。
- ・マッチングシステムは、1店舗のみの出店であったが、令和2年度中に開業予定の店舗が3件あり、一定の成果は出ており、今後の天王通り沿いの活性化につながっていくことが期待できる。

## ＜事業の課題＞※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

- ・積極的に広報活動を行っているが、参加者を大幅に増やすことができず、目標値を達成することができなかった。SNSで言えば、単に情報発信を行うのではなく、ターゲット層のニーズに合わせた内容を発信するなど工夫が必要であると考えられる。
- ・新たに利活用できる空き家や空き店舗を見つけることが困難なため、出店希望者から問い合わせがあっても物件を案内することができない。

## ＜内部評価＞

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40点)	KPI達成への貢献度	B	体験プログラムについては参加者の満足度は高く、年間約1,000人の参加者を確保できた。マッチングシステムについては、少しずつ新たな店舗が増えていくことで、今後のまちの活性化につながるものと思われる。	B
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30点)	コスト効率	B	必要最低限のコストで事業を運営しつつ、一定の成果を出している。また、体験プログラムの参加費などについては、参加者アンケートの結果を見ても、約8割が「ちょうどよい」と回答しているため、適切であると判断する。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	A		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	C	試行錯誤を重ねながら、業務に必要なノウハウはおおむね構築することができた。しかしながら、事業を継続していくための収入に限りがあるため、地元の方を巻き込んだ体制づくりや、新たな財源確保に努める必要がある。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	B		

## ＜今後の展開＞

令和2年度より、一般社団法人津島小商い創出支援機構が、市から自立して運営しているが、引き続き情報共有を図りながら、市においても、可能な限り事業PRを行い、団体が事業継続していけるようにサポートしていく。

担当部局： 建設産業部 / 担当課： 産業振興課